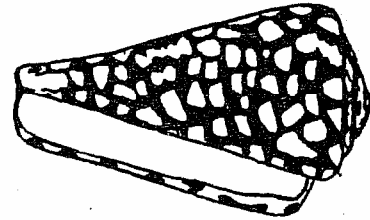


## 緑のまちあれこれ

- 北国分にはうまい鰻屋がない。松戸の二十世紀ケ丘にある一軒も高いだけでそんなにうまいともいえないが、夏の土用が近づいて、酷暑の季節がやってくる。それにしてもどじょうや鮒やザコといわれる川魚が農薬散布のためにいなくなって久しい。道免き谷津にも昭和 40 年頃までは蛙の鳴き声が響いていた。水田があったのだ。それにしてもバイオ燃料とかでガソリンに代わる燃料を穀物から精製するというのはいかがなものか。
- 洞爺湖サミットが始まって地球温暖化対策のメッセージが出されたが、国連で話し合い対策に取り組むべきだという。梅雨明け前の集中豪雨が頻発し、梅雨明けは間近か。酷暑が来る。
- 最近 JR 市川駅に出るのに、北総線北国分駅前からのバスを利用することが多くなった。本数がまだ少ないのと、朝早くや夜遅くは使えない。そのときは矢切回りになるが、結構多くの人に乗るようになってきた。また、北総線も成田まで直通になれば、羽田～成田が乗換なしで利用者が激増するし、京成本線のスカイライナーを超えるドル箱路線になるだろう。本数も多くなれば料金も下げる必要がある。また、松戸～市川に鉄道を通せば、地元利用者には外環などよりもずっと便利になることは間違いない。市や県の交通政策が、あまりにもお粗末だといわざるをえない。
- ガソリンが上がる。ものの値段が上がる。当然消費は抑えるしかない。これからの私たちの生活はどうなるのだろうか。硬直した現在の政治体制や社会慣例を見直して、地元の声を代弁して行政にもの言える代議士を育てること、それしか北国分の改革はない。
- 国家百年の計として実施されている外環道路は、正しい見通しの上で立てて計画されていたのかどうか。一兆何千億もの費用をかけ 100 年後に役に立つ社会資本になるだろうか。その頃には物流の主体はモータリゼーションの時代から大きく変わって、時代遅れのものになってはいしないか。かつての軍国主義戦争と同じような、国費の浪費に終わらせてはならない。地元の具体的な意見を反映させた手直しがどうしても必要になる。



■編集後記■ 梅雨の末期の集中豪雨が各地で起こっています。梅雨が明ければ酷暑が来ます。北国分外環対策協議会の総会は 8 月 2 日です。お誘い合わせの上お出かけください。小塚山トンネル工事や北総線交差工事など問題が山積しています。

# 緑のまち

—北国分だより—



第 86 号 2008. 7. 15 発行

編集 北国分外環対策協議会  
市川市北国分 3-7-5 三好方  
Tel 047-372-7898

## 北国分外環対策協議会 総会

日 時 平成 20 年 8 月 2 日 (土) 午前 10 時～12 時  
場 所 小塚山研修所 第 2 会議室



話し合しましょう

- 外環 (国道部) が中矢切で県道市川松戸線に接続され (3 月) 生活道路への影響は……。
- 道路の切り回しにより、通学道路、生活道路はどうなるか……。
- 交通事情の変化により、北国分にも信号機が必要な箇所があるのでは……。
- サービス道路を部分開通する問題は……。
- トンネル工事による実際の被害状況は……。
- 北総線との交差部 (高速) の工事は……。

会員の皆様も、そうでない方も、お誘いあわせの上お出かけください。

## 「緑のまち」の役割について

37 年前、市川市を南北に縦断して、外環道路が通ることがわかったとき、沿線住民の運動として、北国分にも外環対策協議会がつくられ、以来変わることなく問題に取り組んできました。「緑のまち」を発行するようになって 16 年になりますが、外環の様々な問題点を明らかにする一役を担ってきました。

ご承知のように、現在小塚山の下にトンネルが造られ、外環ができることは避けられない既成事実のようになってきました。この期に及んで何を……とお考えの方も多くなりました。しかし、既に完成した埼玉外環では、一日に 12 万台もの車が騒音・排気ガス公害を撒き散らし、交通事故も増加して、近隣住民の生活を脅かしています。私達の街にこのような問題を起こさせないために、住民の立場から外環事業者に発言してゆく場をもつことが、これからはますます必要になってくるのではないのでしょうか。「緑のまち」は、地域住民の生活情報誌としての役割をこれからも担っていければと考えています。

## 第15回 森の音楽会 (報告)

森の音楽会実行委員会

初夏の陽の光が森に射し込む5月18日(日)、第15回森の音楽会が小塚山で開かれました。約250名の方々が参加され、森に響くフルートやオカリナ、そしてピアノ、尺八の音色に心癒され、それとハーモニーするようなメジロ・シジュウカラ・コゲラなどの小鳥のさえずりに耳を傾けた一日でした。

当日は多くのご意見やカンパをお寄せいただきありがとうございました。これら貴重なご意見はこれからの森の音楽会をより良くするために、役立たせていきたいと思ひます。



アンケートは66名(うち記名20名)の方からいただきました。ありがとうございました。いくつかを抜粋しました。

- 毎回ステキなゲストを迎え、生の演奏が聞かれることは幸せです。これからも期待しています。エゴの花が満開で香りも良く、天気にもぐまれてよかった。
- 母に誘われ初めてうかがいました。緑の中で音楽を聴くことができる素晴らしい企画で感動しました。有難うございました。
- 若手のソリストと小鳥も参加の音色は素敵でした。森の大切さが良くわかりました。永久に失ってはいけない森の素晴らしさを実感しました。
- 年に一、二度歩きに来る程度ですが、だんだん緑が少なくなって悲しくなります。皆様の努力に感謝します。

## 第15回 森の音楽会に寄せて

斉藤 諒 三

行く川のながれは絶えずして、しかももとの水にあらず。緑濃い木々の葉陰や吹く風の匂いの中に、はるかな年月を超えた自然の大きさを感じます。いま私の手元に小さなオカリナがあります。佐山二三夫さんの解説が付されていますので、おそらく第1回森の音楽会の際に手に入れたものだと思います。

6月の早朝、そのオカリナを携えて小塚山の小径を散策した後、あずまや前の広場でそっと吹いて見ました。一瞬、雲間から陽光が射し込み、木々の葉をすべり降りた陽の光がスポットとなって私を包み込み、それを待っていたかのように二羽の小鳥が枝に飛来してさえずり始めました。朝の儀式です。心の中で三宅佳子さんの歌を口ずさみました。爽やかな風が吹き抜け、緑深い森が受容してくれたように感じました。

ここ数年、森の音楽会の会場準備のお手伝いと、オープニングの合唱団や民族楽器演奏に参加させていただいております。第15回森の音楽会は、新進気鋭の3人の奏者による競演でしたが、洋楽器と邦楽器の織り成す美しい音色が人と森と小鳥たちと融和し、聴く人を魅了したことでしょう。特に尺八の野外演奏は幻想的な虚無の音が地を這い、木々を伝って天空に舞い上がり、悠久の時空に包容され、心からよかったです。

森の音楽会は終わらない。まるで真珠が一つ、また一つと糸から滑り出てゆくように。音楽会が開かれるときは、一番前の席をひとつ空けておきましょう。三宅佳子さんのために。



## 市川の空気を調べる

今年も二酸化窒素の測定が実施されました。

麻生直子

一年に2回、6月と12月に「市川の空気を調べる会」(鈴木一義代表)によって、市川市全域の二酸化窒素(NO<sub>2</sub>)の濃度が測定されます。これは自動車排気ガスによる空気の汚染状況を調べるもので、その測定に使うカプセルは540個、毎回一定の場所、540か所に取り付けて24時間後に回収した後、測定値を分析し貴重なデータを作成しています。熱意ある方々の努力によって報告される測定結果は、年々確実に市内の空気が汚染されていることを示しています。

北国分3丁目を中心に、住宅、公園、道路など10カ所の取り付け場所を回る測定の日、雨が降りませんように、そして24時間後には必ず全部を回収できますようにと願って自転車をとばします。10年以上続くこのカプセル取り付け作業の中で忘れられないある時のこと、引っ越してきたばかりのご主人からの話です。

「犬を連れて散歩から帰ると自分の家の門柱の側で、妙な女性が一人で何やら怪しげなことをしている。闇の中を木陰からじっと見ていると、静かに立ち去っていった。恐る恐る門柱にちかづく、見慣れぬ小さな“もの”が貼り付けてある。オームのサリン事件もあったこと、さては劇薬かと、ゴム手袋にマスクをし、正体も確かめずにつかんで、ドブに投げ捨てて直ちに警察へ通報した。間もなく大事な測定のカプセルであることが分かり、再び警察に取り消しの電話をした」とのこと。

長いこと協力して下さった友人が去り、その後に住むようになった新しい人への連絡がたまたまうまくいかなかったことから起きたトラブルでした。危うく警察沙汰になるところだった“怪しげな女性”(私)と友人は、早速揃ってお詫びに伺い、今後の協力を御願いし了解をえました。カプセル取り付けの際は、不審に思われないようにあたりを見回し、すばやく、しっかりと貼り付け、さりげなく急いで立ち去るという方法を学びました。

## 公害調停・現地調査 7月3日

5月18日に行われた第5回公害調停で、調停委員による現地調査が決まり、7月3日に実施されました。小塚山周辺の住民は、11名参加。ダンプ・重機、モーター、突発的なトンネル内の金属音……など、騒音・振動に悩まされている実状を現地で説明しました。当日、一行は、矢切から高谷まで、千葉区間全線を調査、調停申請代理人の高柳さんも同行しました。

小塚山周辺の住民のなまの声

工事現場に近接している住民は、重機の騒音・振動に、何年も悩まされ続けなければならないということです。

現場では、重機だけでなく、金属をぶっつける音、たたく音、車の音など、いろいろな音が飛び交っています。その上、小塚山トンネル工事では夜間工事までが決行され、四六時中今までの静かな生活が脅かされています。

最近も、何回か、朝方4時頃、防音ハウスの中から金属をたたく音が響き、工事の方に苦情を申し上げたところでした。金属の管がうまく入らないので、たたいて入れようとしたとのことですが、朝方の静かな時にたいへん迷惑なことです。

## 北国分の道 市川の道(2)

西畑健一

奈良時代に官設の道路が、下総国府の国府台から直線状に常陸の国府である石岡へと通じていた。この道は、化研病院前、愛宕神社前の、松戸市川の市境を真北に、さらに八柱から金ヶ作、増尾と北東に進んで手賀沼、利根川を渡って牛久沼のほとりを経たとされている。市川市域内では、北総鉄道工事の際に化研病院前で、また和洋女子大キャンパス整備工事の際、構内から、それぞれ幅8mの、側溝つきの道路遺構が発掘された。地層や土器など伴出した遺物から1300年前のものであることが確認されている。

\*

この道路は、律令国家にとっての物流・軍事の幹線道路にあたり、当時の行政庁である国府と国府を最短距離で結ぶ当時の官道であった。東国の中でも常陸国は、朝廷に武力でも対抗していた蝦夷の地(陸奥)に隣接する軍事的な最前線であり、その常陸に通じる道路が下総から延びていた。このことは、河川交通の拠点として北関東の物資、とりわけ米や味噌を中心とした食糧と、都からの最新式の弓矢や刀などの武器を集積し、輸送する補給基地として、下総国府としての市川がいかに重要な位置を占めていたかということでもある。1300年も前につくられた、外環と同じ性格の国家的な幹線道路が北国分を通っていたことになる。

官道は、計画道路だから、地図上に線を引いたように、無駄のない直線的に計画され、しかも行政区画の境を通っているとされている。それぞれの地域の集落や主要な生産地帯の田畑を避けるためである。それに対して外環は市川の市街地のど真ん中を通そうというのだから、住民の反対の声が大きくなるのは当然だろう。律令時代の官僚でもこんなことはしていない。為政者の無見識というか非見識に呆れるばかりだ。

## 探鳥会

月 日：平成20年4月29日（祝）

天候 晴

参加者：市田 今井 鷺沢 小栗山 川上 川上 川崎 斉藤  
 佐々木 杉野 鈴木 高柳 谷口 谷口 庭庭  
 藤井 三好 村岡 19人

確認された鳥：

カワウ ヒドリガモ ハシビロガモ キンクロハジロ  
 キジバト コゲラ ツバメ ヒヨドリ センダイムシクイ  
 シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ  
 オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス 計17種

コメント：

参加者のみなさん、小さな子供さん、お母さん、ご年配の方、若い方、全部で19人が新緑に萌える林の中を、センダイムシクイ、メジロ、シジュウカラの囀りを聞きながら楽しく歩きました。（村岡幸生）

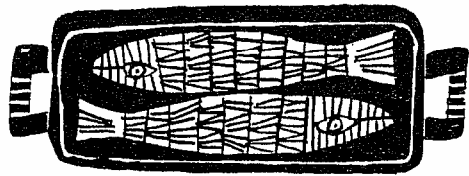


## バードウォッチングに参加して

小塚山～じゅんさい池

小栗山 正美

4月29日は、南の国から夏鳥が日本に渡ってきて市内を通過していくということでしたが、この日は、鳥はあまり見られず、鳴き声を聞く「会」になりましたが、それでも17種類の野鳥の声や姿を見かけました。洞爺湖サミットで、地球環境保護問題が中心課題となっていますが、新自由主義の氾濫で、弱肉強食化した人間の世界で、若者から年寄りまで、いま人が生存していくことが大変な時代になっています。そんな時代だからこそ、身近な自然の観察は、弱者への思いやり、気配りを再起させるよい機会だと思います。



## 夏の花 カラスウリ

谷口 浩之

♪真赤だな 真赤だな/カラスウリって真赤だな/トンボの背中も真赤だな

「まっかな秋」にも歌われているカラスウリは、秋の風物詩です。

編集部から「夏の花」の題をいただきながら、いきなり秋の歌で恐縮です。

実ができるからには花があつて当然なのですが、花はあまり見かけません。暗くなつてから咲きはじめ、朝方にはしぼむため、目には触れにくい花なのです。

十数年前のある真夏の夜、道免き谷津で偶然見つけました。勤め帰りのバイクのライトの中に、ポーっと白く浮かんだものがありました。生垣にからみつくその白い花の周りには、糸状に細かく裂けてレースを広げたような形をしています。それがはじめてみる7～8cm近くのカラスウリでした。幻想的な姿にしばし我を忘れて見入っていました。

真っ暗ですからフラッシュをたいて写すのですが、幻想的な姿を表現することができません。ようやく写せたのは、それから5、6年も経ってからでした。

今はもうなくなった菅野屋さん近くの梨畑にもありました。その梨畑も外環道のため残念ながら数年前に姿を消してしまいました。今年も道免き谷津の堀之内木工近くか大川原さんの生垣で見られるといいですね。

似たものに、黄カラスウリがありますが、こちらは日が昇っても咲いているので見ることができます。汗止めに使う天瓜粉（てんかふん）は、この花の塊根からとるそうです。

## 《ひとくちめも》

かつて「美しい国ニッポン」を唱えた政治家がいたが、美しい国はあまりにも抽象的で実体のない、衣の下に鎧の袖をちらつかせた、ぼんぼん政治家の主情的な観念論に終わって、誰も担ぎ上げるものがなくなってポシャってしまった。一方の野党は、選挙の神様を党首に戴き、

左派も右派も右顧左眄してまともならず、幹事長だけが党内まとめに躍起になっている。政治はともかく、時代はもうとっくに大きく舵が切られているというのに。

